

新婦人しんぶん

新日本婦人の会目的

- ☆核戦争の危険から女性と子どもの生命をまもります。
- ☆憲法改悪に反対、軍国主義復活を阻止します。
- ☆生活の向上、女性の権利、子どものしあわせのために力をあわせませす。
- ☆日本の独立と民主主義、女性の解放を勝ちとります。
- ☆世界の女性と手をつなぎ、永遠の平和をうちたてます。

今週の紙面

- 2面 ニュース ■ 3面 読者のページ/まんが/短歌
- 4・5面 米兵の少女暴行事件に抗議 沖縄県民大会/ジェンダー講座/ホットライン ■ 6面 農民連食品分析センター強化募金/母の歴史 ■ 7面 新婦人の活動/主張/学校給食



北海道訓子府町 高橋啓子(78)

新日本婦人の会は国連に認証されたNGOです

能登復興はなぜすすまないか

阪神・淡路大震災から30年

「創造的復興」が「人間の復興」か

阪神・淡路大震災から30年がたち、今、能登半島地震・豪雨の被災地では「見捨てられたか」と悲痛な声があがっています。岡田知弘さんの講演（災害対策全国交流集会2024・要約）と兵庫の現状から考えます。



京都橋大学教授・
京都大学名誉教授
岡田 知弘さん

政治が大きな障害に

私は、阪神・淡路大震災（1995年1月17日）以来、災害の現場に行き、復興と地方自治のあり方を調査し、研究してきました。

能登半島地震（2024年1月1日）、豪雨災害（9月）という、ありえない大災害が起き、亡くなられた方が504人、うち関連死が276人にのぼります（24年12月27日時点）。住宅被害は石川県10万棟をはじめ富山、新潟に及ぶ15万

棟、道路・水道などインフラ破壊、原発の冷却用外部電源一部喪失など、被害は甚大です。

問題は、みなさんも疑問をもたれるように、なぜこれほど支援も復興もすすまないのかです。

まず国、そして馳石川県知事の動きが問題で、現地に行けば行くほど評判が悪い。現場を尊重せず、トップダウンで国の意向を付度する。これが大きな政治的な障害になっています。大軍拡推進の岸田政権のもと、馳知事は被害直後に「創造的復興」をうたい、「災害と国防とを一体的に考えていく」とまで発言しました。

創造的復興とは大規模な再開発や

おかだ ともひろ 1954年生まれ。京都大学大学院教授を経て、現在京都橋大学教授、京都大学名誉教授。日本地域経済学会元会長、自治体問題研究所前理事長。『震災からの地域再生』（新日本出版社）ほか著書多数。

プロジェクトを持ち込み、生活復興は後回しというのが阪神・淡路大震災以後これまでやってきたことです。

少数与党政権の石破首相の最大の「売り」の一つが防災庁の設置構想ですが、中身は避難所の改善など初期段階止まり、復旧から復興、生活再建の過程へのサポートはありません。今後、防衛省など各官庁とのすり合わせが行われます。軍拡、経済安全保障の優先でさらに被災者の棄民政策へと走るのか、被災者の新しい人間らしい暮らしの復興へとすすむのか、「創造的復興」と「人間の復興」の対抗という新しい局面にあります。

大災害の時代に突いた

今、地球も日本列島も大災害の時代に入っています。地震学者の石橋克彦さんが北海道の奥尻島地震（1993年）を調査し、「列島は活動期、地殻変動の時代に入った」と指摘した後、阪神・淡路大震災はじめ大地震、津波、噴火が相次ぎ、南西諸島から台湾まで連なっています。今回の能登半島地震は最大級の直下型地震です。加えて

地球温暖化に伴う災害が日本を含め世界中で起き、多重災害が常態化しています。

震災復興をめぐって、過去にも対立的な動きがありました。関東大震災（1923年）での後藤新平大臣の帝都復興計画は、道路や建物優先、惨事便乗型の創造的復興論の原型です。そこで「人間の復興」という考え方が現れました。災害現場を調査した福田徳三東京商大（現二橋大）教授が「復興事業の第一は人間の復興でなければならぬ」としたのです。（2面へ）



空を映す棚田（山古志公式ホームページより）

復興する山古志（新潟県）

〈関連2面〉

2004年の新潟県中越地震で全集落が孤立し、長岡市内に全村避難したが、住民の願いで山古志の復興をすすめた。豪雪と地すべりの地域の特色を生かす知恵と技術で生み出された棚田は日本農業遺産に。



写真提供：山田栄作さん(新潟対連)

棚田耕作で大切な働き手だった牛の「角突き」は牛が傷つかないよう、引き分けさせる国の重要無形民俗文化財。地震の翌年から再開され、今も継続されている。

新春行動スタート



各地でいっせいに行動。1月9日、チラシ、宣伝紙の受け取りがよく「がんばって」と励ましも（青森県本部・青森支部）

沖縄・米兵少女暴行事件 抗議！県民大会（4・5面）

【新婦人しんぶん2025年の休刊号について】
今年の休刊は、3月29日号、5月10日号、8月16日号、9月27日号、12月27日号となります。新日本婦人の会

